福知山市 令和6年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	教育委員会一般管理事業				事業コード	100101620501		
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち			政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施策名	1 地域総ぐるみの教育の場づくりの推進			施策コード	411		
事業担当	所属	60010000 教育委員会 教育総務課			所属長	濱田 亜希子		
会計情報	款	10 教育費	項	01 教育総務費	目	01 事務局費		頁
計画期間	開始年度	昭和63年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	—		R6現在の状況
根拠法令等	地方教育行政の組織及び運営に関する法律、福知山市教育委員会基本規則、福知山市教育委員会会議規則							
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☐ その他 ()							
関連事業	—							

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて事業が果たす役割)	教育委員会や教育総務課の運営及び市立小中学校や各教育機関等との連携を行い本市教育の充実を図る。							
対象者	市立幼稚園・学校 園児・児童・生徒・教職員			対象者数	6,684	単位あたりコスト	5.2	
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()							
委託先・実施主体等	神戸総合速記㈱							
事業概要 (箇条書き)	・教育委員会や教育総務課の運営及び各教育機関等との連携事務 ・外部評価委員により、教育委員会で実施した事業の点検・評価を行い、教育行政の推進に取り組む ・教育委員研修等に積極的に参加し、今日的な課題についての調査・研究を行う ・他市教育委員会(教育長・教育委員)間の交流により情報交換などを行い教育の振興、教育環境の充実を図る							
主な支出に係る業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績(R5)	主な業務内容					
	報酬	4,128	教育委員会委員報酬					
	備品購入費・需用費	4,369	教育委員会書庫用ラック、ICレコーダー購入、燃料費、用度物品購入、公用車修繕					
	使用料及び賃借料	1,925	公用車賃貸借料、複合機賃貸借料、営繕積算システム賃貸借料					
	委託料、旅費、役務費、交際費	1,646	教育委員会会議録作成業務委託料、教育長協議会等旅費、電話料、郵送料、教育長交際費					
負担金補助及び交付金、報償費、公課費	525	全国都市教育長協議会負担金、近畿都市教育長協議会負担金、点検評価委員謝礼、公用車自動車重量税						

III 予算執行状況

区分	R4(評価前年度)	R5(評価年度)	R6(本年度)	R7(要求年度)		
予算情報	① 当初予算	11,327	13,393	11,072	0	
	② 補正予算	0	0	0	0	
	③ 繰越予算	前年度繰越	0	0	0	0
		次年度繰越	0	0	0	0
	小計(①～③)	11,327	13,393	11,072	0	
予算財源内訳	① 一般財源	11,327	13,393	11,072	0	
	② 国支出金	0	0	0	0	
	③ 府支出金	0	0	0	0	
	④ 地方債	0	0	0	0	
	⑤ その他特財	0	0	0	0	
決算情報	① 流充用額	△ 350	0			
	② 配当予算	10,977	13,393			
	③ 執行額	9,983	12,593			
	④ 執行率	90.9%	94.0%			
人概工算	① 従事職員数 <small>正職員/会計年度任用職員 ※R4は、正職員/非常勤嘱託職員</small>	2.39 / 0.00	2.39 / 1.10	/	/	
	② 概算人件費	19,120	22,200			
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)	29,103	34,793				
主な利用特財 (N-1年度実績値)	特財名称		種類	実績金額	決算附属資料	頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	定性的評価		/	/	/	/	
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	教育委員会 議案審議数	件	36 / 40	36 / 40	41 / 40	/ 40	40
	単位あたりコスト		252.9	277.3	307.1		
	単位あたりコスト		/	1 /	/	/	教育委員会一般管理事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項目	評価の観点	評価の観点に寄与したR5年度の取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	本市の教育目標「自分のために 人のために 社会のために 共に幸せを生きる人材の育成」の実現、教育環境の充実を図るため、月1回程度の教育委員会会議を開催し、規則の制定や改廃、当面する教育行政の課題について、活発な議論を行い、適切な判断をし、議決事項の審議を行った。	☒ 高い
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	教育行政の充実を図るため、教育委員会の実施事業において、点検評価委員による事務の管理、執行状況の点検及び評価を実施し、その内容について公表を行った。また、教育環境が大きく変化する中、ICT環境の整備などの課題解決に向けた取組の推進に努めた。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	よりよい教育環境を最優先に考え、本市教育目標の実現のため、他市教育委員会(教育長・教育委員)間の交流、情報交換、研修会に参加するなどし、教育行政の課題について理解を深めた。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	<p>【定性的評価】 教育委員会会議においては、活発な意見交換や議案等の審議を行い、地域の実情に応じた教育の振興を図ることができた。他市教育委員会等との交流、情報交換などを積極的に行い、さらなる教育行政の推進に努める。教育委員会の活動について広域的確に広報する必要がある。</p>		
改善策	教育委員会会議の議事録公表や教育委員会で行う事業の活動内容について速やかに広報するため、教育委員会のホームページを充実させ、教育委員会の事業や活動内容について積極的に広報していく。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	--

福知山市 令和6年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	中学校部活動地域移行検討事業				事業コード	100102620105		
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち			政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施策名	1 地域総ぐるみの教育の場づくりの推進			施策コード	411		
事業担当	所属	60020000 教育委員会 学校教育課			所属長	間島 哲哉		
会計情報	款	10 教育費	項	01 教育総務費	目	02 教育振興費		頁
計画期間	開始年度	令和5年度	終了予定年度	令和9年度	関連計画名	-		R6現在の状況
根拠法令等	-							
事業区分	☐ 法定受託事務 ☒ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事業 ☒ その他 (国委託金・府委託金)							
関連事業	社会人コーチ派遣事業							

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて事業が果たす役割)	地域における持続可能で、多様なスポーツ・文化芸術環境を整備することにより、生徒がスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会と、生徒の多様なニーズに合った部活動機会を確保・充実させる。また、地域移行を進めることにより、教員の働き方改革を促進する。							
対象者	生徒・中学校教職員	対象者数	2,147	単位あたりコスト	4.3			
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()							
委託先・実施主体等	(有)チームワーク・京都ユニオンサービス株式会社							
事業概要 (箇条書き)	①部活動改革検討会議を設置し、本市の学校部活動及び休日の部活動の地域連携や地域移行(地域クラブ活動)について検討する。 ②部活動地域移行・総括コーディネーターを配置する。 ③ホリデークラブ(国・府の実証事業)を実施する。							
主な支出に係る 業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績(R5)	主な業務内容					
	報償費	1,743	福知山市部活動改革検討会議委員謝礼、部活動地域移行・総括コーディネーター報償費、市部活動指導員・外部指導者(ホリデークラブ・ソフトボール)報償費					
	需用費	697	ホリデークラブ用各種消耗品、備品修繕料、福祉バス燃料費					
	委託料	384	スクールバス特別運行業務					
	旅費	346	京都府地域クラブ活動推進検討委員会出席、部活動地域移行先進地視察、実務担当者研修会、練習試合に伴う福祉バス添乗					
役員費・使用料及び賃借料	269	部活動地域移行総括コーディネーター・ホリデークラブ参加者・指導者保険料、ホリデークラブ(サッカー)チーム登録手数料、施設使用料、高速道路使用料						

III 予算執行状況

区分	R4(評価前年度)	R5(評価年度)	R6(本年度)	R7(要求年度)				
予算情報	① 当初予算	0	4,452	11,198	0			
	② 補正予算	0	0	0	0			
	③ 繰越予算	前年度繰越	0	0	0	0		
		次年度繰越	0	0	0	0		
	小計(①～③)	0	4,452	11,198	0			
予算財源内訳	① 一般財源	0	1,885	220	0			
	② 国支出金	0	1,197	1,601	0			
	③ 府支出金	0	1,370	9,377	0			
	④ 地方債	0	0	0	0			
	⑤ その他特財	0	0	0	0			
決算情報	① 流充用額	0	△ 97					
	② 配当予算	0	4,355					
	③ 執行額	0	3,438					
	④ 執行率	0.0%	78.9%					
人概工算	① 従事職員数 正職員/会計年度任用職員 ※R4は、正職員/非常勤嘱託職員	0.00 / 0.00	0.69 / 0.10	/	/			
	② 概算人件費	0	5,800					
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		0	9,238					
主な利用特財 (N-1年度実績値)	特財名称	地域スポーツクラブ活動体制整備事業 (合同部活動の推進に関する実証事業)	種類	教育費国庫委託金	実績金額	1,045	21	頁
		京都府運動部活動の地域移行に向けた実証事業		教育費府委託金		1,487	29	
		京都府地域スポーツ・文化クラブ活動体制整備事業補助金		教育費府補助金		70	27	

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
		休日の部活動地域移行実施校	校	/	/	9 / 9	/ 9
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	休日の部活動地域移行実証種目	数	/	/	2 / 2	/ 7	14
	単位あたりコスト				1719.0		
	休日の部活動地域移行実証回数	回	/	3 /	33 / 24		
	単位あたりコスト				104.2		

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項目	評価の観点	評価の観点に寄与したR5年度の取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動地域移行・総括コーディネーターを2名配置し、年度当初に各中学校の部活動の視察と校長ヒヤリングを行い、福知山市立中学校の部活動の実態把握を行った。また、実証事業実施に向けた連絡調整、検討、準備、実施中のサポート等を行った。 部活動改革検討会議を設立し、福知山市における休日の部活動の地域移行を確立するための検討、国・府から委託を受けた実証事業の検証を行い、次年度以降に向けた方向性の検討を行った。 	☒ 高い
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	<ul style="list-style-type: none"> 国府の実証事業を受託して委託金を獲得し、合同部活動と地域クラブ活動の実証事業を展開した(ソフトボール・サッカーの2種目)。また、府補助金を活用して部活動改革検討会議の報償費や事務費を捻出し、コスト削減に努めた。 	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	<ul style="list-style-type: none"> 休日において、南陵・日新中学校ソフトボール部の合同部活動(ホリデークラブ・ソフトボール)を週1回と、南陵・日新中学校以外の7校で学校部活動ではない位置づけの地域クラブ活動(ホリデークラブサッカー)を月2回、10月よりそれぞれ開始し始めた。このモデル実施の検証を行い、次年度以降の方向性を確定させた。 	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	<ul style="list-style-type: none"> 実証する中で、部員の募集、指導員確保、活動にかかわる連絡調整、指導員の報償費や施設・スクールバス使用にかかる経費等、様々な課題が生じてきている。また、部活数、部員数の少ない部活動を合同部活動にすることの限界も出ている状態がある。今後において持続可能な運営方法、財源の確保、参加しやすい体制づくりなど、課題の洗い出しを丁寧に行い、庁内検討会議及び部活動改革検討会議で協議を行いながら進めていく。 		
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 休日の部活動の完全移行を完了するための期限を確定し、実証事業を進めながら、それぞれの種目の移行の期限を確定させるため、移行のモデル種目を拡大、また、運動部活動に加えて文化部活動についても実証を開始する。 R5,6年度の移行モデルをそれぞれの部活動種目のパターンに置き換えて、完全移行に向けた検討を続ける。 合同部活動の実証数を1から2種目へ、地域クラブ活動を1から3種目へ、新たに文化部活動の実証事業を1種目、それぞれ拡大する。 総括コーディネーターを1名増員する。 それぞれ事業を拡大するための予算を増額し、充実を図る。 		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	--

福知山市 令和6年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	社会人コーチ派遣事業					事業コード	100102620171					
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実					
	施策名	1 地域総ぐるみの教育の場づくりの推進				施策コード	411					
事業担当	所属	60020000 教育委員会 学校教育課				所属長	間島 哲哉					
会計情報	款	10 教育費	項	01 教育総務費	目	02 教育振興費		会計	01 一般会計	決算附属資料	211	頁
計画期間	開始年度	平成28年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	-			R6現在の状況	継続中		
根拠法令等	-											
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 ()											
関連事業	-											

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	【部活動外部指導者】 中学校部活動と地域社会との連携を促進し、部活動の競技力や技術力の向上を図る。 【部活動指導員】 部活動指導員において、教職員と同じ役割を担える人材を配置することで、教職員の指導時間・負担の軽減を図る。											
対象者	生徒	対象者数	1,945		単位あたりコスト	2.0						
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()											
委託先・実施主体等	中学生の部活動の指導者として社会人コーチ等を派遣する。											
事業概要 (箇条書き)	【部活動外部指導者】 学校教育や生徒の心身の発育・発達等に応じた部活動の指導ができるよう学校と連携を図り、顧問と協力して部活動が展開されるように、主に実技指導を補充するためコーチ派遣を行う。 【部活動指導員】週3日2時間程度、部活動顧問と同じ役割を担える人材を雇用し、大会等引率も含め、通年的な指導を行い、部活動顧問の負担軽減を図る。											
主な支出に係る 業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績(R5)	主な業務内容									
	報償費	2,414	部活動外部指導者・部活動指導員報償費									
	役務費	28	部活動外部指導者・部活動指導員保険料									

III 予算執行状況

区分	R4(評価前年度)	R5(評価年度)	R6(本年度)	R7(要求年度)		
予算情報	① 当初予算	1,647	4,015	3,157	0	
	② 補正予算	0	0	0	0	
	③ 繰越予算	前年度繰越	0	0	0	0
		次年度繰越	0	0		
	小計(①～③)	1,647	4,015	3,157	0	
予算財源内訳	① 一般財源	1,050	1,339	3,157	0	
	② 国支出金	0	0	0	0	
	③ 府支出金	597	2,676	0	0	
	④ 地方債	0	0	0	0	
	⑤ その他特財	0	0	0	0	
決算情報	① 流充用額	3	0			
	② 配当予算	1,650	4,015			
	③ 執行額	1,022	2,442			
	④ 執行率	61.9%	60.8%			
人概工算	① 従事職員数 正職員/会計年度任用職員 ※R4は、正職員/非常勤嘱託職員	0.37 / 0.00	0.19 / 0.00	/	/	
	② 概算人件費	2,960	1,520			
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)	3,982	3,962				
主な利用特財 (N-1年度実績値)	特財名称		種類	実績金額	決算附属資料	頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	部活動指導員の配置による顧問の部活動指導時間の負担軽減率	%		46 / 20	23 / 20	28 / 20	/ 20
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	部活動指導者・指導員雇用	人	18 / 19	11 / 19	15 / 20	/ 20	20
	単位あたりコスト		49.2	92.9	162.8		
	指導回数(部活指導者)	時間	232 / 288	5301 / 360	1059 / 1440	/ 1440	1440
	単位あたりコスト		3.8	3.4	2.3		

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項目	評価の観点	評価の観点に寄与したR5年度の取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	<p>【部活動外部指導者】 部活動に対して、地域人材(社会人)を派遣し、効果的・専門的な指導を行い、生徒の競技力・技術力の向上を目指すために寄与し、7校に派遣する事ができた。</p> <p>【部活動指導員】 教職員の働き方改革を行うため、顧問の教職員の部活動指導に係る時間の軽減に寄与し、3校に配置することができた。</p>	☒ 高い
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	<p>【部活動外部指導者】 顧問の教職員の専門的な指導が不足する場合に、専門的な指導のできる人材を派遣し、効率よく生徒に指導が行えた。7中学校に合計12名の派遣ができた。</p> <p>【部活動指導員】 部活動指導員を配置することにより、単独での指導や大会引率ができるため、顧問の教職員の部活動指導に係る時間が軽減され効率的であり、3中学校に各1名配置できた。</p>	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	<p>【部活動外部指導者】 専門的な指導ができる地域人材(社会人)を派遣することで、部活動における生徒の育成や競技力・技術力の向上に有効である。また、団体行動での大切な事、礼儀等においても部活動を通じて学ぶ事ができた。</p> <p>【部活動指導員】 顧問の教職員が会議や打ち合わせ等や突発的な生徒指導の際にも、部活動指導員の指導により、部活動が継続して行え、生徒の部活動時間の保障と、教職員の負担軽減ができた。部活動の運営及び教職員の働き方改革の両面で有効である。</p>	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	<p>【部活動外部指導者】部活動に対して、地域人材(社会人)を派遣し、学校や顧問の教員と連携をとりながら指導者が主に実技指導を補完することで、生徒の競技力の向上に寄与することができ、各学校からの成果報告書から、「試合の進め方や審判の方法など初心者の内容から、技術面及び戦略的な面における内容まで丁寧な指導され、自分たちで試合をすすめられるようになった。例えばバレーボールへの指導等ではサーブやレシーブ等の基本的な技術に加えて、効果的なポジショニングについてもトレーニングを始めている。技術力以外のあいさつや、マナーの面でも少しずつ向上している様子が見られる。」等、評価が確認できた。R6年度は、府の外部指導者事業が廃止になるため、市の部活動外部指導者事業の継続的な実施が必要である。</p> <p>【部活動指導員】 生徒に対しての専門的技術指導により、生徒の部活動への出席や意欲の上昇につながった。今後も働き方改革の観点から、継続実施が必要であるが、勤務形態等学校現場の状況を理解された人材確保が課題である。</p>		
改善策	<p>【部活動外部指導者】 専門的な指導のできる人材を派遣し、効率よく生徒の能力向上につなげるため、継続的な実施が必要であり、更に充実を図る。</p> <p>【部活動指導員】 働き方改革の観点から、教職員の部活動指導時間の負担軽減が図れるため、予算措置をし充実を図る。また、各競技団体と連携をとり人材確保につなげていく。</p> <p>スポーツ庁・文化庁の提言による部活動の地域移行等についても関係各機関と連携し、移行を進めていく。</p>		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	--

福知山市 令和6年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	はばたけ世界へ 中学生短期留学事業				事業コード	100501610108						
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち			政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実						
	施策名	1 地域総ぐるみの教育の場づくりの推進			施策コード	411						
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課			所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費		会計	01 一般会計	決算附属資料	224	頁
計画期間	開始年度	令和3年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	-			R6現在の状況	継続中		
根拠法令等	-											
事業区分	☐ 法定受託事務 ☒ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 ()											
関連事業	-											

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて事業が果たす役割)	次代を担う中学生に、広い視野と国際感覚を持ち、新たな価値観や多様性を受け入れ、グローバルな国際社会で未来を切り開くために役立つ短期留学を支援し、国際交流を通じて自らの成長と新たな次のステップに挑戦する契機とする。また、将来的に地域経営のアイデアを有したグローバル人材の育成へとつなげる。											
対象者	福知山市内在住かつ福知山市内中学校に在学している2年生			対象者数	700		単位あたりコスト	25.3				
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()											
委託先・実施主体等	ANAあきんど(株)京都支店											
事業概要 (箇条書き)	○令和5年8月に中学2年生15人を対象として、海外留学を実施した。 4～7月 事前学習会 計5回 開催、8月 海外留学 実施(研修地:カナダ コキットラム等、10日間)、留学報告会 開催 ○令和6年8月に中学2年生15人を対象として、カナダへ10日間の海外短期留学を計画し、生徒募集・選考及び業務委託契約を行う。 1～3月 令和6年度 海外留学生徒募集・選考、応募者全員研修会開催											
主な支出に係る 業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績(R5)		主な業務内容								
	報償費	110		事前学習会講師謝礼、海外留学生徒作文審査謝礼								
	旅費	217		職員旅費(打ち合わせ、海外留学引率)								
	需用費	102		生徒募集リーフレット作成、消耗品費(フラットファイル他)								
	役務費、使用料及び賃借料	47		郵送料、クリーニング代(現地着用浴衣分)、公立大学教室使用料(応募者全員研修会)								
委託料	14,257		海外留学実施業務委託									

III 予算執行状況

区分	R4(評価前年度)	R5(評価年度)	R6(本年度)	R7(要求年度)				
予算情報	① 当初予算	5,908	15,821	16,384	0			
	② 補正予算	0	0	0	0			
	③ 繰越予算	0	0	0	0			
	前年度繰越	0	0	0				
	次年度繰越	0	0					
小計(①～③)	5,908	15,821	16,384	0				
予算財源内訳	① 一般財源	0	0	0	0			
	② 国支出金	0	0	0	0			
	③ 府支出金	0	0	8,192	0			
	④ 地方債	0	0	0	0			
	⑤ その他特財	5,908	15,821	8,192	0			
決算情報	① 流充用額	35	0					
	② 配当予算	5,943	15,821					
	③ 執行額	5,943	14,734					
	④ 執行率	100.0%	93.1%					
人概工算	① 従事職員数 正職員/会計年度任用職員 ※R4は、正職員/非常勤嘱託職員	0.41 / 0.00	0.37 / 0.00	/	/			
	② 概算人件費	3,280	2,960					
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)	9,223	17,694						
主な利用特財 (N-1年度実績値)	特財名称	はばたけ世界へ 中学生短期留学事業基金繰入(ふるさと創生事業基金)	種類	基金繰入金	7,365	決算附属資料	36	頁
		はばたけ世界へ 中学生短期留学事業(きょうと地域連携交付金)		教育費府補助金	6,965		28	

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	海外留学生徒数	人	0 / 10	15 / 15	15 / 15	/ 15	15
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	海外留学年間実施回数	回	0 / 0	1国内留学 / 1	1 / 1	/ 1	1
	単位あたりコスト		0.0	5943.0	14734.0		
	事業説明会等事業啓発活動	回	0 / 2	7 / 3	1集約 / 3	はばたけ世界へ 1 中学生短期留学事業	
単位あたりコスト		0.0	990.5	14734.0			

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項目	評価の観点	評価の観点に寄与したR5年度の取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル化が進む現代において、次代を担う中学生の短期留学を支援することにより、将来的なグローバル人材の育成に繋げる。 留学実施の際には、生徒募集から選考、留学の引率までを教育委員会で担う。 生徒の学習意欲を尊重し、経済的理由で参加を断念することがないよう、生徒の留学費用(移動費用、授業・教材代、滞在費用等)は公費負担とする。また、就学援助又は生活保護受給世帯については、さらに扶助費から渡航経費の補助を行い、負担緩和を図る。 	☒ 高い
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	<ul style="list-style-type: none"> 留学実施業務及び応募者全員研修会については外部委託し、専門講師の招聘や留学中の安心安全に十分配慮した留学実施に結び付ける。 海外留学出発前に福知山公立大学国際センター協力による事前学習会(各2時間、計2回)を開催し、学習中は全て英語で自己紹介やグループワークを行い、実践的な英語を身につけた。 海外留学中の現地交流の一環として、出発前に福知山踊振興会から講師をお招きして福知山踊りの練習を行った。カナダでは現地校の方々と共に浴衣を着て福知山踊りで交流し、現地でも大変好評であった。 	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度海外留学には、募集人数15人のところ、91人の生徒から応募があった。 海外留学実施初年度となったが、無事10日間の行程を終えることができた。参加生徒においては、留学を契機に今後に向けて大変意欲的な思いを聞くことができた。令和6年度留学生徒募集説明会では、先輩の体験談として、留学経験で得たことや学びを後輩の前で発表した。 	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	○事前学習会では福知山公立大学国際センター、福知山踊振興会、また、福知山踊りの浴衣を30着貸し出していただいた福知山商工会議所、そして現地校・現地地催行スタッフなど、多くの方々の協力を得て、10日間の留学を充実したものにする事ができた。 ○海外留学を通して日本ではできない多くのことを体験し、短期間ではあるが、生徒自身の自立や成長に繋がる機会となった。帰国後は、「長期海外留学を目標にしたい」「成長したコミュニケーション力を発揮していきたい」「将来の職業に役立てたい」など短期留学を契機に今後に向けて大変意欲的な思いを聞くことができた。 ○令和6年度海外留学生徒募集から応募者全員研修会(2月)を開催し、異文化やコミュニケーションについて学ぶ機会を提供し、留学への関心をさらに高める機会となった。		
改善策	○留学実施においては、感染症等の出入国規制による影響を受けるため、状況に応じた対応策の検討が必要である。 ○燃油付加運賃・航空保険料や為替相場の大幅な変動が起きた場合、留学実施費用が増加する可能性がある。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	--

福知山市 令和6年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	二十歳を祝う会事業					事業コード	100501610301				
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実				
	施策名	1 地域総ぐるみの教育の場づくりの推進				施策コード	411				
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課				所属長	岸見 貴志				
会計情報	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費	会計	01 一般会計	決算附属資料	225	頁
計画期間	開始年度	昭和26年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	-			R6現在の状況	継続中	
根拠法令等	-										
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的的事业 ☐ その他 ()										
関連事業	-										

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	青年が次代を担う者としての自覚を高め、社会の一員としての意識を養い、自己の確立に努めることを基本方針とし、その方針を具現化するために成人の日の前日に式典を挙行し、参集した二十歳の方を祝い、激励する。次代を担う対象者を保護者、地域が認め、大人の仲間として改めて受け入れる機会とする。										
対象者	式典を実施する年度中に20歳に達する人・保護者・地域住民				対象者数	800		単位あたりコスト	5.5		
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()										
委託先・実施主体等	(株)フォールズ(警備)、Crew・Solook(音響・照明)、(株)街装社(会場設営)										
事業概要 (箇条書き)	○二十歳を祝う会の開催 令和6年1月7日(日)開催 三段池公園総合体育館 出席者:565人 内容 式典参加者は一定の間隔をとった座席とした。 福知山高等学校放送部、府立工業高等学校吹奏楽部、福知山市合唱連盟、高校生ボランティアへは依頼はせず運営を行った。 18歳・20歳それぞれの門出をお祝いするために、市内71店舗で使用することができるクーポン付きの福おめお祝いはがきを配布した。										
主な支出に係る 業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績(R5)	主な業務内容								
	報償費	26	手話通訳謝礼								
	需用費	296	手提げ袋、消耗品(布額テープ、マーカー他)、式次第作成用色上質紙、お祝いはがき・ポスター印刷製本、横断幕								
	役務費	287	看板書換料、郵送料、新聞広告掲載料								
	委託料	966	会場設営業務、音響・舞台照明業務、駐車場警備業務、動画編集・放映業務、暖房器具等搬入設置業務、お祝いはがきデザイン作成業務、除雪業務は実施なし(単価契約)								
	使用料及び賃借料	203	三段池体育館使用料、盆栽借用料								

III 予算執行状況

区分	R4(評価前年度)	R5(評価年度)	R6(本年度)	R7(要求年度)		
予算情報	① 当初予算	1,204	1,711	1,908	0	
	② 補正予算	0	0	0	0	
	③ 繰越予算	0	0	0	0	
	前年度繰越	0	0	0		
	次年度繰越	0	0			
小計(①~③)	1,204	1,711	1,908	0		
予算財源内訳	① 一般財源	1,204	1,711	1,908	0	
	② 国支出金	0	0	0	0	
	③ 府支出金	0	0	0	0	
	④ 地方債	0	0	0	0	
	⑤ その他特財	0	0	0	0	
決算情報	① 流充用額	455	67			
	② 配当予算	1,659	1,778			
	③ 執行額	1,659	1,778			
	④ 執行率	100.0%	100.0%			
人概工算	① 従事職員数 正職員/会計年度任用職員 ※R4は、正職員/非常勤嘱託職員	0.62 / 0.03	0.30 / 0.07	/	/	
	② 概算人件費	5,044	2,596			
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)	6,703	4,374				
主な利用特財 (N-1年度実績値)	特財名称		種類	実績金額	決算附属資料	頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	出席者の割合	%	79 / 100	76 / 100	81 / 100	/ 100	100
			/	/	/	/	
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	二十歳を祝う会開催	回	1 / 1	1 / 1	1 / 1	/ 1	1
	単位あたりコスト		1301.0	1659.0	1778.0		
			/	9 /	/	/	二十歳を祝う会事業
	単位あたりコスト						

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項目	評価の観点	評価の観点に寄与したR5年度の取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	<ul style="list-style-type: none"> 二十歳を祝う会は、成人としての自覚をもち、自ら生き抜こうとする二十歳を祝い、励ますことを目的に行われている。令和4年4月1日より成人年齢が18歳となったが、飲酒や喫煙、競馬などのギャンブルも含めすべての年齢制限がなくなる区切りは二十歳であり、引き続き重要な節目である。二十歳となった対象者が改めて自身の行動に責任をもち、同年代の仲間が一堂に集まり、再会を楽しむ場となるよう今後も式典を実施することは必要である。 	☒ 高い
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	<ul style="list-style-type: none"> コスト的に活動内容にあった運営となっている。 アトラクションも近隣高校に協力いただくなどコスト削減に努めている。 近年の記念品の持ち帰り状況や近隣市の実施状況を考慮して、平成29年度から記念品を廃止している。二十歳となった対象者には、当時の小学校・中学校・高校の先生などからメッセージを募り、メッセージ集を作成し、インターネット上で閲覧できるようにした。 	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	<ul style="list-style-type: none"> 式典参加者は一定の間隔を座席とした。 例年、工業高等学校吹奏楽部、福知山高等学校放送部、運営補助の高校生ボランティアの協力を得ていたが、今年度は依頼をしなかった。事前に市内5高等学校吹奏楽部の演奏映像の提供を依頼し、オープニング映像として随時放映した。形を変えて、学生の参画の場とすることが保障できた。 出席率については、対象の8割以上の出席者があり、概ね目標は達成できたと考える。 	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	<p>○平成18年度から対象者、関係者の増加に伴って三段池公園総合体育館で実施している。大きなトラブルもなく多くの対象者の参加を得て開催できたことは評価できる。</p> <p>○令和4年4月1日から、成人年齢が18歳に引き下げられたが、福知山市としては名称を「成人式」から「二十歳を祝う会」と改め、対象者は20歳とし、今後も式典時期は現行どおり1月の成人の日の前日に実施する。</p>		
改善策	<p>○継続的に事業実施を進め、対象者にとって充実した式典となるよう内容の見直しを検討していきたい。</p> <p>○市在住、出身、在勤の20歳が一同に会する機会であるので、新たな門出を迎える20歳に地元への関心を持ってもらうため、市内の協賛店舗で使用できるお祝いのはがきの作成を引き続き行い、市政PR等の場とする。</p>		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	--

福知山市 令和6年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	地域で支える「地域未来塾」開講事業				事業コード	100501630210		
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち			政策目標	1 子どもたちの成長を育む多様な学びの場の充実		
	施策名	1 地域総ぐるみの教育の場づくりの推進				施策コード	411	
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課			所属長	岸見 貴志		
会計情報	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	01 社会教育総務費		頁
計画期間	開始年度	平成27年度	終了予定年度	令和8年度	関連計画名	-		R6現在の状況
根拠法令等	-							
事業区分	☐ 法定受託事業 ☒ 国府補助事業 ☐ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 ()							
関連事業	-							

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて事業が果たす役割)	家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない中学生に、教員OBや大学生など地域住民の協力による学習の場を提供し、学習習慣の確立と基礎学力の定着、義務教育終了時に必要な学力、高等学校等進学後に必要な学力の獲得を支援する。							
対象者	学習習慣を十分に身につけさせたい中学校3年生の生徒			対象者数	656	単位あたりコスト	13.1	
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 () 分担金支出							
委託先・実施主体等								
事業概要 (箇条書き)	○令和5年度実績 市内9ブロック、全市内市立中学校で実施 実施期間:8月末から2月末(週2回、各1時間) 主な実施教科:英語、数学 開講日数:252日 受講生徒数:105人 学習支援員数:延べ77人							
主な支出に係る 業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績(R5)	主な業務内容					
	報償費	4,402	コーディネーター・学習支援員謝礼					
	旅費	17	コーディネーター研修旅費					
	需用費	480	消耗品費(インク、ホワイトボード、賞状用紙、文房具等)、教材代					
	役務費	115	コーディネーター・支援員傷害保険料、郵送料					

III 予算執行状況

区分	R4(評価前年度)	R5(評価年度)	R6(本年度)	R7(要求年度)				
予算情報	① 当初予算	6,040	5,983	5,703	0			
	② 補正予算	0	0	0	0			
	③ 繰越予算	0	0	0	0			
	前年度繰越	0	0	0				
	次年度繰越	0	0					
小計(①~③)	6,040	5,983	5,703	0				
予算財源内訳	① 一般財源	0	0	2,231	0			
	② 国支出金	0	0	0	0			
	③ 府支出金	2,810	2,436	2,319	0			
	④ 地方債	0	0	0	0			
	⑤ その他特財	3,230	3,547	1,153	0			
決算情報	① 流充用額	△ 409	△ 309					
	② 配当予算	5,631	5,674					
	③ 執行額	4,698	5,014					
	④ 執行率	83.4%	88.4%					
人概工算	① 従事職員数 正職員/会計年度任用職員 ※R4は、正職員/非常勤嘱託職員	0.37 / 0.00	0.45 / 0.00	/	/			
	② 概算人件費	2,960	3,600					
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)	7,658	8,614						
主な利用特財 (N-1年度実績値)	特財名称	地域で支える「地域未来塾」開講事業	種類	教育費府補助金	2,467	実績金額	28	頁
		地域で支える「地域未来塾」開講事業基金繰入(ふるさと創生事業基金)		基金繰入金	2,547		36	

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	出席率	%		85.2 / 100	80.7 / 100	84.4 / 100	/ 100
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指標	単位	R3	R4	R5	R6	最終目標
	開校数	校	9 / 9	9 / 9	9 / 9	/ 9	9
	単位あたりコスト		566.9	522.0	557.1		
	単位あたりコスト		/	11 /	/		

地域で支える「地域未来塾」開講事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項目	評価の観点	評価の観点に寄与したR5年度の取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身についたりしていない中学生は、全国的にも大きな問題となっており、その中学生に対し、学習支援を行う必要性は高い。 令和5年度は105人の生徒が受講し、延べ77人の学習支援員が支援を行った。 	☒ 高い
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか 	<ul style="list-style-type: none"> 補助(国・府)制度の活用。学習支援員は、地域の方のボランティアで実施している。また、計画的に事業を進めるため、地域支援コーディネーターを中心に実施している。 地域の方々が学習支援などに協力いただいたことで、学校以外の学習の場を設け、受講生徒の苦手分野の克服や学習習慣が身に付くよう支援ができた。また、学習の場だけでなく、地域の方々との心地よいやりとりの場や、安心して自分の思いを話せる居場所を提供することもできた。 	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか 	<ul style="list-style-type: none"> 閉講前のアンケート等においても家庭学習の時間が増えたという意見が聞かれた。アンケート結果抜粋: 未来塾参加前と比べて、全体の90%の生徒が勉強する時間が増えたと回答した。未来塾参加前と比べて、全体の74%の生徒が1日30分以上勉強している日が増えたと回答した。 	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	<p>○平成27年度に桃映地域をモデル事業として実施し、平成28年度には2地域(成和・六人部)を追加して3地域に、平成29年度はさらに2地域(南陵・日新)が加わって5地域に、平成30年度からは未実施であった4地域(川口、三和、大江、夜久野)を加え、市内全地域9地域にて実施。</p> <p>○受講生徒が前年対比22人増でのスタートとなったが、学校・公民館・学習支援員の協力を得て、全ての学校が年間を通して事業を推進することができた。</p> <p>○学習指導員として参加する地域の方々からもやりがいを感じるとの意見を得ている。このことから事務事業として高く評価できる。</p> <p>○受講生徒の増加や学習支援員の高齢化に伴い、新たな学習支援員の確保が課題となっている。</p>		
改善策	<p>○地域支援コーディネーターを中心に、事業の周知等や学校・公民館と連携し、学習支援員の人材確保を進める必要がある。</p>		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	--